

CentreCOM™ RE1000Plusシリーズ Windows®95用ドライバのインストール

この度は、CentreCOM RE1000Plusシリーズをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この冊子には、本アダプタをWindows95のもとで使用するための手順が記載されています。本アダプタは、Plug and Playに対応していないアダプタであるため、セットアップには若干の注意が必要です。この冊子では、セットアップの手順を示しつつ、陥りやすい障害の回避方法などのいくつかのポイントについて説明いたします。

記述内容

1	RE1000Plus用ドライバのインストール	2
	本アダプタの工場出荷時設定	2
	ドライバの所在	2
	インストール手順	2
	ドライバの削除	6
2	トラブルシューティング	8
	デバイスマネージャによる空きリソースの確認	8
	本アダプタが使用するI/Oポートアドレス	10
	RE1000Plusのハードウェア設定値の確認	10
	RE1000Plusのハードウェア設定値の変更	11
	注意（既にリソースが重複してしまっている場合）	12

1 RE1000Plus用ドライバのインストール

本アダプタの工場出荷時設定

本アダプタが下記の設定で出荷されています（デフォルト）。購入時のまま設定を変更していないのなら、下記の値を使用してインストールしてください。デフォルト以外の設定で使用する場合は、トラブルシューティングをご覧ください。

I/Oポートアドレス： Windows95における表示: D0 - D1
CFG1000における表示: 0x00D0 - 0x1ED1
インタラプト (IRQ): A (16進)、10 (10進)

ドライバの所在

Windows95には、本アダプタの32ビットNDISドライバが標準で添付されており、RE1001/7Plusでご使用いただけます^{†1}。

インストール手順

以下の手順で行います。例としてあげた画面イメージは、お客さまのパソコンにおける表示と異なる場合がありますがご了承ください。

- (1) Windows95をインストールします。既に、Windows95のインストールが終了している。または、プリインストール版の場合は、手順(2)に進んでください。
- (2) Windows95を終了させてから、パソコンの電源を切り、本アダプタをユーザーズマニュアルに従ってパソコンに取り付けます。
- (3) インストールが終了したら、画面左下の「スタート」ボタンをクリックし、「設定(S)」から「コントロールパネル(C)」を選択します。
- (4) コントロールパネルが現われます。「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。

†1 本製品に添付されているドライバディスクにも同様の32ビットNDISドライバが含まれています。ドライバディスクに含まれるドライバのインストール方法については、ドライバディスクのreadme.95をご覧ください。この冊子では、Windows95に含まれるドライバのインストール手順を説明しています。また、ドライバディスクの場合、メディアのバージョンアップが容易であるために、Windows95のメディアに含まれているドライバより新しいバージョンのものが提供されることがあります。



図1

- (5) 「ネットワーク」プロパティシートが現われます。「ネットワークの設定」タブを選択し、「追加(A)...」ボタンをクリックしてください。



図2

- (6) 「ネットワーク構成ファイルの追加」ダイアログが現われます。「アダプタ」を選択し「追加(A)...」ボタンをクリックしてください。

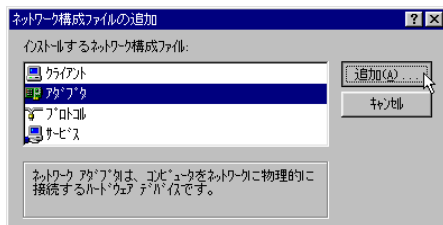


図3

- (7) 「ネットワークアダプタの選択」ダイアログが現われます。「製造元(M)」で「Allied Telesis」、「ネットワークアダプタ」で「ATKK RE1000 Plus」を選択し「OK」をクリックします。製造元に「Allied Telesyn」に似た「Allied Telesyn」という表示がありますが、間違えずに「Allied Telesis」を選択してください。

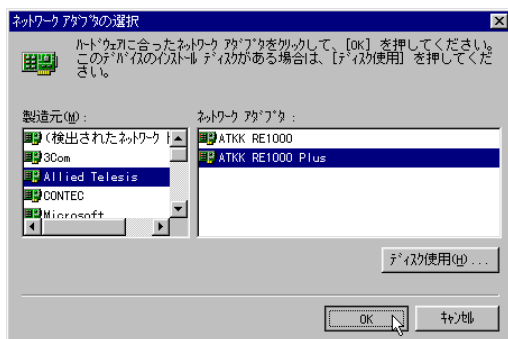


図4

- (8) 「ネットワーク」プロパティシートに「ATKK RE1000 Plus」が表示されます。「現在のネットワーク構成(N):」で「ATKK RE1000 Plus」を選択し、「プロパティ(P)」ボタンをクリックしてください。

†1 本アダプタの工場出荷時設定（デフォルト）は、「0x00D0-0x1ED1」(CFG1000.EXEが表示する値)です。本アダプタの設定が不明の場合や、他の値に変更したい場合は、本冊子のトラブルシューティングの項目をご覧ください。

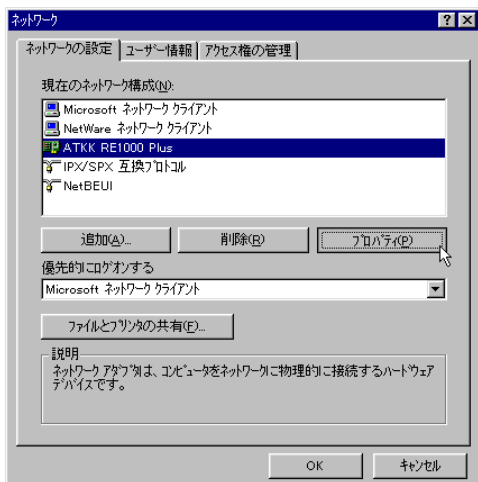


図5

- (9) 「ATKK RE1000 Plusのプロパティ」プロパティシートが現われます。「リソース」タブをクリックしてください。本アダプタのI/Oポートアドレスを工場出荷時設定のまま変更していない場合^{†1}、「D0 - D1」であることを確認して「OK」をクリックしてください。「ATKK RE1000 Plusのプロパティ」プロパティシートが閉じたら、「ネットワーク」プロパティシートの「OK」ボタンをクリックしてください。

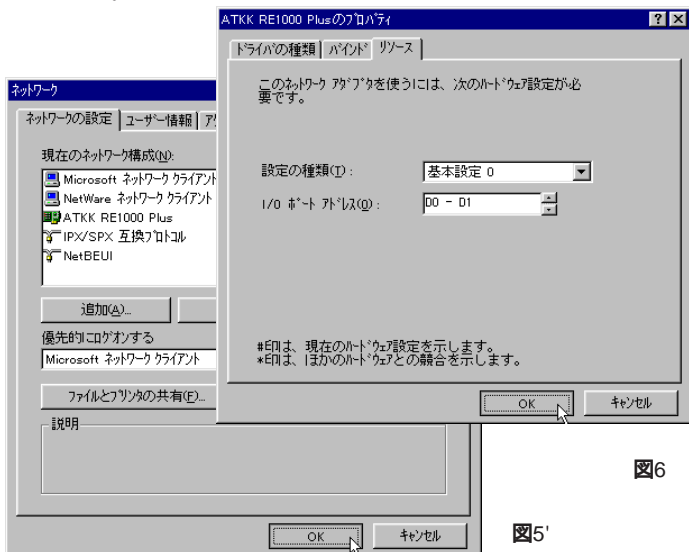


図6

図5'

- (10) Windows95の供給メディアを要求されます。

CD-ROMの場合は、「ファイルのコピー元 (C) :」で「drv:¥WIN95」を入力してください。画面では、CD-ROMドライブ (drv.) をE:と仮定します。



図7、8

プリインストール版Windows95の場合は、「ファイルのコピー元 (C) :」で「drv:¥windows¥options¥cabs」を入力してください (通常)。drv.は、Windows95がインストールされているハードディスクのドライブ名です。

フロッピーディスクの場合は、指示された番号のディスクをフロッピードライブに入れ、「ファイルのコピー元 (C) :」で「drv:¥」を入力してください。drv.は、フロッピーディスクドライブのドライブ名です。

- (11) 「システム設定の変更」が表示されます。「今すぐ再起動しますか?」という問いに対して、「はい (Y)」をクリックしてください。以上で本アダプタ用のドライバのインストールは終了です。再起動以後、上記手順の設定が有効となります。

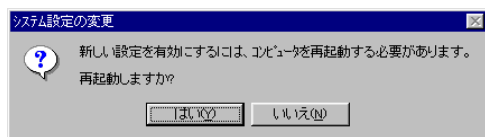


図9

- (12) お客様のネットワーク環境に応じて、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行ってください。これらの設定は、「コントロールパネル」の「ネットワーク」を起動することにより、行うことができます。

ドライバの削除

インストールされている本アダプタ用ドライバの削除は、以下の手順を実行してください。

- (1) 画面左下の「スタート」ボタンをクリックし、「設定(S)」から「コントロールパネル(C)」を選択します。
- (2) 表示されたコントロールパネルから「システム」アイコンをダブルクリックします。
- (3) 「システムのプロパティ」プロパティシートの「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「ネットワークアダプタ」の下に表示されている「ATKK RE1000」を選択して、「削除(E)」ボタンをクリックしてください。



図10

- (4) 「システム設定の変更」が表示されます。「今すぐ再起動しますか?」という問いに対して、「はい(Y)」をクリックしてください。再起動以後、本アダプタのドライバが削除された状態となります。

2 トラブルシューティング

本アダプタがうまく動作しない原因のほとんどは、パソコンや他の拡張アダプタと本アダプタのリソース（I/Oポートアドレス、割り込み要求の設定）が重複しているというものです。以下に設定重複が原因となっているトラブルを回避するためのアウトラインを示します。このアウトラインをもとに再度設定の確認をしてください。

- [1] パソコンの空きリソースを確認します。
- [2] 本アダプタをパソコンに取り付け、本アダプタの設定状態（本アダプタが使用するリソース）の確認を行います。また、必要があれば設定の変更を行います。
- [3] 本アダプタ用ドライバのインストールを行います。

デバイスマネージャによる空きリソースの確認

Windows95で既に使用されるハードウェアデバイスのリソースは、以下の手順で確認することができます。ここで確認されたリソースを把握した上でデバイスの追加を行うことをおすすめします。

- (1) 画面左下の「スタート」「設定」「コントロールパネル」でコントロールパネルを開きます。「システム」アイコンをダブルクリックしてください。



図11 (図1)

- (2) 「システムのプロパティ」プロパティシートが現われます。「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「コンピュータ」アイコンを選択してから、「プロパティ」ボタンをクリックしてください。



図12

- (3) パソコンが既に使用しているリソースの一覧である「コンピュータのプロパティ」リソースシートが現れます。図13aでは、割り込み要求 (IRQ、インタラプト) の使用状況を表示しています。「I/Oポートアドレス(O)ラジオボタンをクリックすれば、既に使用されているI/Oポートアドレスの一覧が表示されます (図13b)。

一覧の中に表示されていない割り込み要求 (IRQ)、I/Oポートアドレスの数値は、RE1000Plusで使用可能です。

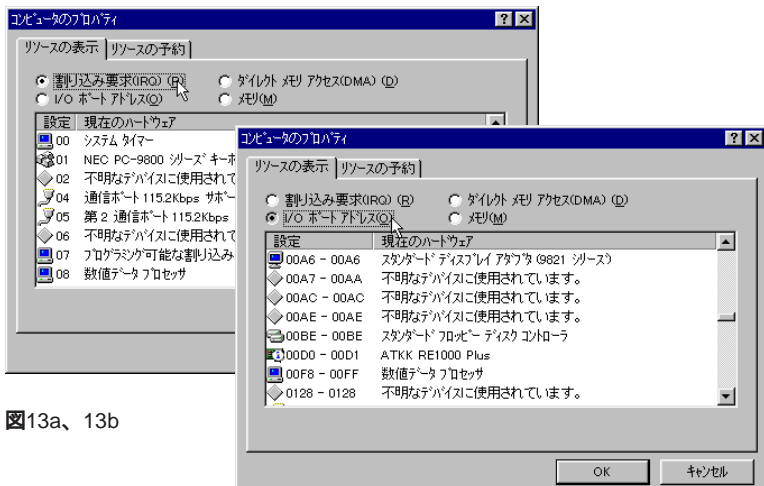


図13a、13b

本アダプタが使用するI/Oポートアドレス

例えば、手順(9)の図のように「D0 - D1」と表示されている場合、実際には下記の32個の飛び飛びのI/Oポートアドレス(リソース)が使用されています。他社製のハードウェアデバイスなどを追加する場合、下記のI/Oアドレス領域を指定しないようご注意ください。I/Oポートアドレスの先頭値が「00D0」以外の場合に使用されるアドレスについては、ユーザーズマニュアル「付録 I/Oアドレスマップ」をご覧ください。

00D0、00D1、02D0、02D1、04D0、04D1、06D0、06D1、
08D0、08D1、0AD0、0AD1、0CD0、0CD1、0ED0、0ED1、
10D0、10D1、12D0、12D1、14D0、14D1、16D0、16D1、
18D0、18D1、1AD0、1AD1、1CD0、1CD1、1ED0、1ED1

RE1000Plusのハードウェア設定値の確認

「本アダプタの設定値を変更したことがあるのだがその設定値を忘れてしまったので確認したい」というような場合、本製品に添付のドライバディスクに含まれる「CFG1000.EXE」で行います(本アダプタ上にはスイッチやジャンパーピンなどによるハードウェア設定はありません)。

- (1) パソコンに電源を投入します。
- (2) 画面に「Starting Windows95 ...」または「Windows95 を起動しています ...」というメッセージが表示されたら、キーボードの「F 8」キーを押します。
- (3) 「Command prompt only」または「コマンドプロンプトのみ」を選択しパソコンを起動します。
- (4) パソコンのフロッピードライブにドライバディスクを挿入します。
- (5) フロッピードライブに移動しCFG1000.EXE^{†1}を起動します。ここでは、フロッピードライブをB:と仮定します。

```
A: ¥>B:  
B: ¥>CFG1000
```

- (6) メインメニューから「LAN Adapterの設定変更」を選択します。

†1 CFG1000.EXEの詳細に関しては、ドライバディスク内のREADME.1STで確認してください。

- (7) 「Auto Scan Start」を選択してください。該当する I/O ポートアドレスを見つけてだと現在設定されている設定値を表示します。「Auto Scan Start」は選択項目の一番最後にあります。
- (8) メモなどにI/OポートアドレスとIRQの値を書き取ってください。この数値を「2 RE1000Plus用ドライバのインストール」の手順（9）で設定します。
- (9) 確認が終了しましたら「ESC」キーを押して「CFG1000」を中断します。

RE1000Plusのハードウェア設定値の変更

「他のデバイスとの重複を避けるための設定値の変更をする」場合、本製品に添付のドライバディスクに含まれる「CFG1000.EXE」で行います（本アダプタ上にはスイッチやジャンパーピンなどによるハードウェア設定はありません）。

- (1) パソコンに電源を投入します。
- (2) 画面に「Starting Windows95 ...」または「Windows95 を起動しています ...」というメッセージが表示されたら、キーボードの「F 8」キーを押します。
- (3) 「Command prompt only」または「コマンドプロンプトのみ」を選択しパソコンを起動します。
- (4) パソコンのフロッピードライブにドライバディスクを挿入します。
- (5) フロッピードライブに移動しCFG1000.EXE^{†1} を起動します。ここでは、フロッピードライブをB:と仮定します。

```
A: ¥>B:  
B: ¥>CFG1000
```

- (6) メインメニューから「LAN Adapterの設定変更」を選択します。
- (7) アダプタに現在設定されている I/O ポートアドレスの値を選択します。値が不明の場合は、「Auto Scan Start」を選択してください。「Auto Scan Start」は選択項目の一番最後にあります。
- (8) I/Oポートアドレスを変更する場合、新たな設定値を選択します。I/Oポートアドレスの変更を行わない場合は、現在の設定値を選択します。

- (9) IRQを変更する場合、新たな設定値を選択します。IRQの変更を行わない場合は、現在の設定値を選択します。この数値を「RE1000 Plus用ドライバのインストール」の手順（9）で設定します。
- (10) 設定が終了したらパソコンの電源をオフにし、再度電源をオンにしてください。「Ctrlキー」+「Altキー」+「Deleteキー」で行うソフトウェアリセットでは、本アダプタに対する新たな設定が有効化されません。

注意（既にリソースが重複してしまっている場合）

本アダプタと重複するリソースを使用しているパソコンでは、ハードウェアの設定確認や変更ができないことがあります。この場合は、本アダプタを他のパソコンに取り付けて確認、設定の作業を行ってください。



- (1) 本マニュアルは、アライドテレシス(株)が作成したもので、全ての権利をアライドテレシス(株)が保有しています。アライドテレシス(株)に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- (2) アライドテレシス(株)は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。
- (3) アライドテレシス(株)は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- (4) 本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©1996 アライドテレシス株式会社

CentreCOM、CentreNETはアライドテレシス株式会社の商標です。

PC/TCPiは、米国FTP Software, Inc.の商標です。

NetWareは、米国 Novell, Inc.の商標です。

Sunは、米国Sun Microsystems, Inc.の登録商標です。

Windows、MS-DOS、Microsoftは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。